

Fグループ会報

No. 13
フェリス女学院短期大学
音楽科
Fグループ

ごあいさつ

会長 中島 恭子 (9回)



初夏の候、皆様如何お過ごしでしょうか。昨年6月に役員交代致しまして一年が過ぎました。私は、今迄役員として同窓会のお手伝いを永い間致して参りましたが、会長の任はとても重く、至らぬ所ばかりでございます。同窓会も年々と会員が増え、現在、2,000人の大世帯となり、お互いの親睦も薄れつつあります。私達役員も2ヶ月に一度集り、年間の行事計画や、同窓会の運営をスムーズに行う為の努力を致しておりますが、やはり会員御一人ひとりの積極的な参加と御協力がなくては、同窓会の発展も望めないと思います。フェリスのキリスト教精神のもとで学びました私達が、研修会に於て共に学び、同窓生の演奏会に暖かい応援を送り、又、その他の場所に於て、お互いに声を掛け合って、そのつながりを大切に、音楽の面に於ても、人間としても成長して行くことが大切だと思います。各支部も、その地域に於て、いろいろな行事を計画して活躍しております。この会報が唯一の皆様との交流の場でもございます。多くの方々の情報交換の場として、大いに御利用下さいませ。又、私達の方にも皆様の御意見、御希望を、ぜひお聞かせ下さい。皆様の御健康と、一層の御活躍を心からお祈り申し上げます。尚、今後共皆様の御協力を宜しくお願い申し上げます。

Fグループ研修会 (58, 59年度)

井上直幸先生をお迎えして

緒方 智子 (32回)

6月5日(日)、井上直幸先生をお迎えしてのFグループの研修会が開かれました。当日が盛況であったという事は、申すまでもありません。今回は、Scarlattiを糸口にして、その時代の音楽について、又音楽全般についてのお話がありました。その中で私の記憶に残った事を2つ3つ書いてみたいと思います。

1つには「音の立体感」というものについてですが、楽譜はいわゆる平面上に書かれたものです。それが絵にもなりますし、言葉や又時によっては風の流れにもなります。それは皆、人の体や心による技なのです。もしそれが単に音にでしかかなり得なかった場合、それはきっと殺伐としたものになってしまうことでしょう。その平面を立体化させるにはどうすればよいのか、具体的には10本の指1本1本が別々の動きができる事と先生がおっしゃっていらっしゃいましたが、10の基本の色を用いて、その濃淡それぞれの混合色や影等を合わせれば、一体幾つの色が生み出せるのでしょうか。そしてそれらの色で作りに上げられた絵は、どんなに生きて立体感あふれるものになっているのでしょうか。楽譜上のものを単に音としてではなく、色として、言葉として等様なとらえ方をすべきなのではないかと思えます。

次に「リズム」についてですが、先生はリズムは五線には正確に書ききれないとおっしゃいました。と言いますのは、例えば のリズムでも の最初の八分音符は と感じる感じでおっしゃるのです。けれど の感じは各々によってもかわりますし、勿論曲によってもかわります。ですからリズムの最後の微妙な所はとても五線には書ききれないのです。けれどその微妙な所がいわばリズムの一番重要な所だと考えて良いのではないのでしょうか。そしてヨーロッパ人と日本人はその点で明らかに違うのです。教会と固く結びついた生活と神仏を拝する生活、収穫の時に踊られる、ダンスと盆

踊り。私達個人がどうなすべもない物があります。けれどそれは是非を問うものではありません。各々自分の物を作り出していく事に意味があるのだと私は思います。

最後に子供の教育に対して、「子供にはまだ理解できないであろうという危惧はない方がよい。子供の方が大人よりはるかに音楽に対する理解度は高い。ピアノを通して子供と語り合う事が大切」というお話がありました。ピアノのお稽古(音楽教育)が本来の目的とはかけ離れた所で行われている事も多い昨今、とても鋭い御指摘だと思ったと同時に、語り合いを忘れた事をしてはならない、と痛感させられたのでした。(どなり合いではありません。)

当日の記録とは言えない書き連ねですが、先生のお話の一端でも感じて頂けたら幸いです。

公海レッスンを聞いて

井上 真記子 (22回)

まだ肌寒い5月の日曜日、総会の後、Fグループ主催水本教授による公開レッスンを聞きました。小学3年生6年生、中学生、卒業生の4人の方が、カバレフスキーの小品、クレメンティのソナチネ作品36-6、ベートーヴェンのソナタ作品14-2、モーツァルトのソナタ作品331を演奏され、先生は、それぞれの方に楽しいお話を交えて適格なアドバイスをされ2時間がまたたく間に過ぎてしまいました。

小さい子供にピアノを教えるには、テクニックより心が大切であること、豊富なイマジネーションをかきたてること、指が動くようになってきたら手に負担がかからないように体を楽にして合理的に指を動かすこと、又曲の背景、譜面を通しての表現方法を考えること、そしてテンポがとても大切であることなどわかり易くお話し下さいました。先生は作品に対して細かい解説をされましたが、演奏者に対しては、「もう少しゆっくり」あるいは「そこは強く」というように決して多くは語られませんでした。しかし、その一言によって急に音楽がいきいきと、ときにはしっとりと落ちついて、装いを変えたことに驚きました。私は日頃小さい子供に接する機会が多いのですが、子供の心に近づこうとしてつい一人で話しかけ、多くの言葉をふりまいている内にふと気がつく相手も心も音楽もどこかへ行ってしまっているというむなしい思いをよくします。レッスンは、音楽がたくさんあって言葉は少なく、あらゆる知識に裏づけられた一言が演奏者の心をわきたたせ、作品をよみがえらせるものをつくづく思いました。

○Fグループでは、卒業後も学ぶ場を持つ、という主旨のもとに、毎年諸先生方をお迎えして、研修会を行っております。役員の中で十分に話し合い、なるべく多くの方に興味を持っていただける内容や、出席なされやすい日時を決めております。しかしながら、毎回貴重な諸先生方の講義にもかかわらず、ごく僅かな方々の出席しか得られない現状で、大変残念に思う次第です。御参考までに今までの研修会の内容を一部記載致します。これを機会にもう一度研修会を見直して頂ければ幸いです。尚、一般の方々も参加できますので、お誘い下さい。その他、御希望、御意見がございましたら、お気軽に役員まで御一報下さい。

- 54年 佐藤 馨先生「ロマン派の音楽について」
- 54年 橋本英二先生「バッハについて」(3回シリーズ)
- 55年 大宮真琴先生「ハイドンの新しい演奏法」
- 56年 小林道夫先生「モーツァルトについて」
- 56年 三善 晃先生「他者との間で一情操と情緒」
- 57年 黒岩英臣先生「音楽と食卓—ベートーヴェン—」
- 58年 井上直幸先生「演奏と対談」
- 59年 水本雄三先生「ピアノ公開レッスン」

倉長先生、三宅先生を囲む会



昨年、3月をもって教授のポジションを定年御退職された、倉長治子先生、三宅春恵先生に永年の感謝と御礼をこめて、同年5月31日、松屋サロンにおいて、両先生を囲む会が催されました。当日は150名余りの同窓生が集まり、遠山一行先生、中田喜直先生を始め、諸先生方から、両先生の思い出話、又同窓生からは隠されたエピソード、両先生御自身からは御苦勞話や失敗談など、なごやかな雰囲気時間のたつのも忘れる思いでした。尚両先生は現在も非常勤講師として学校で御教鞭をとられています。

ハンガリーから帰って

金子 良子 (4回)

10年ぶりに行かれたハンガリーで、たった一日見学することを許された幼稚園は、私達が日本で見ている様な建物と違い、大きなビルの一画にありました。どこかの家に入る様な重い木のドアを開けて中に入ると、体中を柔らかく包みこむ温かさと、子供が画いた色と輪郭のはっきりした幼い絵や、素朴な木のままごと道具や、子ども達に抱かれて手垢のついた人形達が並んで椅子に坐っていて、やはり子どもの家という感じがしました。

フォライ・カタリン先生の授業は、4才児のクラスと5才児のクラスを見学させていただきました。部屋は楕円を半分に切った様で、丸くなっている部分が出窓になって、窓に沿って丸く木のベンチが造りつけられています。壁や天井は白く、窓も木の枠で縁が厚く木肌の温かさが伝わる気持ちでした。部屋の真中には、きれいな絨毯が敷かれ、その中央に先生の椅子が一つ置いてあります。フォライ先生は60を過ぎておられるのですが、若々しく落ち着いた柔かい声で子どもに話しかけられます。ハンガリー語の通訳なしなので内容がわからないのが残念でしたが、子ども達は先生から目を離さず聞いていました。フォライ先生は33年間、この部屋で子どもに歌ってこられたとのことでしたが、馴れた様な弛緩した状態は感じられず、まだ始めたばかりの若い方の様な初々しささえうけました。

3, 4才児では高い低いを色々な幅で認識できることに目標がおかれ、声、リコーダー、グロッケンなどで、わらべ唄の開始音を色々変えてうたわせていました。高い低いだけでなく、硬い音、汚ない音、柔かい音の聞きわけをして再現することもされていました。5, 6才児は均等な拍感、リズム感を身につけることを主とされていて、わらべ唄を先生の手叩子から当ててうたい出したり子ども達がうたいながら、その通り手拍子を打ったり、降ろした手で体を拍で叩きながらうたっていました。1フレーズ毎に遊びを交換する際、リズムのわるい子が友達とぶつかったり、後れをとって残ってしまったりするのは可愛らしい恰好で、昔の子どもを見る様でした。

小さい組の子どもが終って室外へ出て行き大きな子ども達と入れ替る時、見学している私達の横を通りながら私達を見る目が好奇心でいっぱいなのに、日本の子どもに見られる友達同志ヨソソ言い合うのではなく、その子どもの体中が私達に向って開かれている感じがしました。

10年前にハンガリーへの研修旅行で幼稚園を見学し、その素朴な部屋の飾りつけや、質素な身なりの保母達、幼なさが可愛い子ども、それにわらべ唄だけを使っただけの授業を知ってから日本のわらべ唄を色々調べたりうたってみたりしました。そして、音楽教室の様に音楽を学ぶべく親に入れられている行儀の良い子ども達でなく、普通の、1クラス30名前後で一人の保母がその面倒を見ている一般の幼稚園に、それが行えるかを考え、いくらかやってみたりしました。ハンガリーの子どもと日本の子どもの大きな違いは、日本の子ども達が子どもにとってまだ必要でない早い雑多な知識に汚染されていること親も含む社会の忙しさの中でゆったり落ち着く場を失っていることです。物が豊富にありいくらでも取り替えのきく毎日の中で、物・言葉・色・音どれも沢山のスペアがあります。自分の体はそれに付いて行かなくなると目や耳で触れているスピードとまるで違うゆっくりした単純なわらべ唄を、子ども達は心から楽しめないでいます。とくに私の知っている下町の子ども達は、八百屋・魚屋・乾物屋・金物屋と、親が店番をする時テレビが守りをする様な地区だからでしょうか、人の声に耳を傾け心を通い合わせることがわからないでいます。通りに面している部屋では子どもの唄声より大きく車のクラクションやちり紙交換のスピーカーの音が聞えます。子ども達は音の幅の少ないリズムの変化に乏しいうたよりテレビまんがの歌を要求します。そして歌い出すと周りの音に負けまいとどなって歌います。子ども達は歌声を聴いて楽しむことや、歌って心が開放されたり、慰められたりすることがありません。

通りからは荷馬車を引く馬の蹄の音が聞こえる部屋でフォライ先生の年をとられた柔かい歌声に目を輝かせて耳を傾ける汚れていない顔の子ども達を見ていて、私達のしていく音楽がどうあれば子どもの中で生きられるのか、ますますわからなくなりました今回の旅行でした。

Fグループ主催ジョイントリサイタル

去る6月12日、一昨年に続き、Fグループ主催・ジョイントリサイタルが県民小ホールに於いて開催され、次の3名の方々が演奏なさいました。

- オルガン 三森 祐 (30回)
- メソアン: 「昇天」より
- ピアノ 福田久美子 (21回)
- グラナドス: 「ゴイエスカス」より
- ソプラノ 岡本佐知子 (29回)
- シューベルト「幸福」シューマン「献呈」他

今回は同窓生皆様の御協力を賜りまして、感謝致しております。また、Fグループ主催の演奏会は今後も続けて参りたいと存じておりますが、皆様の御支援あつての演奏会。どうぞフェリスのお仲間を励ます意味でもお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

演奏を終えて

岡本 佐知子 (29回)

卒業して4年余、フェリスで学んだ事を誇りにして、勉強を続けてきました。学生時代から、ステージや人前で歌うことを何回となく経験しましたが、慣れてくるにつれて、聴衆との一体感を味わうには、どうしたら良いのか考えるようになりました。この度のジョイント・コンサートの一ヶ月程前に、ある有名な伴奏家からご指導を受ける機会に恵まれ、その際、『聴く喜びを与えなさい。必ずあなた自身の喜びとなつてかえってきます。』という演奏の原点についての教示を頂きました。

当日は、まず伴奏者と私との音楽が一つになり、一つ一つの曲が持つ世界を、聴衆があたかも絵画でも見ているかのように表現できたらと思いつつ、歌ったつもりです。私と伴奏して下さった岩井周子さんの造り上げたものが、聴いて下さった方々に、ほんの少しでも喜びを与えられたならば、大きな意味のある一歩になったと思います。これから技術的なことは勿論ですが、人生を歩むにつれ、もっと色彩の豊かな、味わい深い歌を歌えるよう、努力して参りたいと思います。

～支部だより～

<中部支部> 会長 峯沢 紉子 (14回)

中部支部も発足して、もう2年半も経ってしまいました。歲月人を待たずとか、あつと云う間のことでした。色々な行事も先ずまずの成功をおさめ、無事終えることができたのも皆様方の心から御支援のお蔭と、感謝の気持ち一杯です。紙面をおかりして深くお礼申し上げます。

昨年の大島久子先生の公開講座は外部の方を含め、約100名の参加があり、日頃幼児教育に色々な点で疑問を抱いていた受講者にとって、とても有意義なお話でしたと、大層な好評で、重ねて再開の要望もまわっている程です。

今年の行事としましては、去る4月8日(日)に第二回ジュニアコンサートを桜花咲き初める名古屋城内堀にある愛知県婦人文化会館で行いました。生徒約60名の出演で、とても楽しい会になりました。又子供達のマナーの良さが印象的でした。因みに来年度は、ジュニア・コンサートとし、中電ホールで開催してはどうかと実行委員の案でございます。

今秋の行事は、久しぶりに音楽会をもつことにしました。10月31日(水)中電ホールで新人演奏会を行います。出演者は、川辺ゆかり(ピアノ) 田村明子(フルート) 安井洋子(ピアノ)の3人で開きます。又、最後に特別演奏として大島君子先生に上りしめて頂くことをお願いしております。中部地区では、国立音大、武蔵野、愛知県立芸大等の卒業生がどんどんリサイタルを打ち出して来ている現状です。Fグループも一生懸命頑張りますので、どうか御声援下さいませ様心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、役員として至らないままに任期2年をおわらせていただきました。5月に役員改選を下記のように決定しましたので承認していただきます様お願い申し上げます。

中部支部役員改選結果

- 支 部 長 峯沢 紉子(14回)
- 副 支 部 長 岡本 博子(15回) 服部 幸子(20回)
- 会 計 書 記 早川 孝子(14回) 川辺ゆかり(32回)
- 田村 明子(32回)
- ジュニア・シニアコンサート
- 執 行 委 員 岡本 博子(15回) 西田千寿子(27回)
- 庶 務 水原 元子(8回)
- 名 簿 委 員 滝川さち子(21回)
- 演奏会執行委員 大橋多美子(20回)

以上

<西南支部> 会長 田村 淑子 (8回)

皆様、お元気にお過ごしのことと思います。西南支部より、近況報告を致します。

昨年は、中高英作文科家政科とも合同で、院長、学長音楽科同窓会長をお招きして、10月19日に同窓会を催しました。この集りは、3年毎に当番を各科で回り持ちで20数年前より続いております。昨年は音楽科が当番にあたり幹事も良く協力し合い出席者約60名の盛会でした。音楽科としましては、自分達の勉強になる会をと、隔年に講演会を催しています。

本年度は6月28日午前10時半より、福岡市の日立ファミリーホールに於て、日本楽器後援で行いました。講師に、一昨年に続き、種田直文先生をお招きして、『様式感のある演奏とは?』という題で、教える立場と演奏する立場から、様式感のある演奏と様式感のない演奏とはどのように違うかを、先生の演奏により御講義頂きました。2時間半がアツという間に過ぎ、もっと教えて頂きたい気持ち一杯でした。

福岡に於て、同窓生が主体となって仕事が出来ますのはフェリスだけではないかと、多くの方より信用を戴いております。西南支部の同窓生の皆様に感謝申し上げます。

催し物を開催しますことは、気苦労の多い仕事ではありますが、少しでもフェリスのお役に立てればと願っております。

Fグループ後援演奏会

- 83' 6月9日(木) 相沢冷子(29回) 川辺晶子, 坂田美子
- 林百合子(30回) 平井美智代(31回)
- 笹川智代(32回) 木村菜穂子(29回)
- 小倉一美(30回)

グループハーフェン第4回公演 イギリス館

- 83' 9月9日(金) 大島君子(3回) 大島江浪(32回)
- ジョイント・リサイタル ゲーテ座

- 84' 5月22日(火) 岩井周子(29回)
- ピアノ・リサイタル イノ・ホール

- 84' 10月30日(火) 山岡妙子(28回) 安田郁子(29回)
- ジョイントコンサート 豊橋駅前文化ホール
- 曲目: プロコフィエフ

- 「フルートとピアノの為のソナタ OP. 94」
- ブラームス
- 「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ OP. 100」

- C. P. E. バッハ
- 「トリオソナタ No. 1 Wg. 83」他
- ピアノ 山川明子 (31回)

(以上敬称略)

尚、後援は3ヶ月前までに申し込み用紙に御記入の上永川恵子(25回)までお願い致します。申し込み者多数の場合は役員会にて決定させていただきますので御了承下さいませ。申し込み用紙の御請求は下記までどうぞ。

永川 恵子

音楽科同窓会学年幹事名

御自分の学年幹事の方々を確認して、住所変更などありましたら、必ずお知らせ下さい。(以下敬称略)

- 1回-細矢 紀子 2回-山本 和子 3回-三宮 康子
- 田中 順 大島 君子
- 4回-山下喜久子 5回-八木 英子 6回-新倉 玲子
- 斉藤 芳恵 中野 初子 青木 圭子
- 7回-堤 晴子 8回-川野とし子 9回-新井 典子
- 田口 妙子 黒羽 友子 小林 和子
- 10回-大川 清子 11回-池田 孝子 12回-山本由紀子
- 丸山 高峯 白井 洋子 小又 好子
- 13回-片野 浩子 14回-大山みゆき 15回-中村 俊子
- 土方 明美 小野 美子 毛塚 利子
- 16回-三上美津子 17回-別府 輝子 18回-三宅 洋子
- 竹並 信子 関 純子 樋口 和子
- 19回-浅生 和子 20回-村瀬 潤子 21回-田中みどり
- 尾山 知子 小林 美知 長浜 啓子
- 22回-湯浅 典子 23回-小宮 弘子 24回-小灘 裕子
- 小西 和代 大野 則子 篠原 純子
- 25回-田中 薫 26回-谷口 直子 27回-鈴木みどり
- 永川 恵子 福ノ上博子 鈴木 麻美
- 28回-斉藤 紀子 29回-伊藤 潔美 30回-小嶋 直子
- 山城 真理 須藤多恵子 外谷 京子
- 31回-有村 早苗 32回-瀬川 敦子 33回-吉野 直子
- 山城 弘子 赤城 郁子 梅山伊津子
- 34回-岡 千恵子 35回-黒沢 美花
- 安藤 真理 斉藤真理恵

昭和58年度会計報告 (59年3月末現在)

収 入	支 出
前年度繰越金 8,367,699	同窓会総会費用 5,000
58年度終身会費 2,200,000	研修会費用(井上先生)
研修会券代(井上先生)	145,920
103,500	演奏会后援費 130,000
白菊会より 1,955,000	慶弔費 3,850
(通信会費分 665,000含む)	中部支部関係援助金
名簿広告代 180,000	60,000
倉長, 三宅両先生 830,000	九州支部関係援助金
(記念品代 330,000含む)	80,000
黒沼ゆり子音楽会券代	支部関係出張費 45,000
15,000	音楽科事務所へ 50,000
フェリス・カード 3,600	倉長, 三宅両 1,132,070
銀行利息 36,689	先生を囲む会
	名簿関係費 2,795,340
	会議費用 102,460
	フェリス・カード購入
	10,000
	事務用品, 通信費 16,460
合 計 13,691,488	合 計 4,576,100
	次年度繰越金 9,115,388

計 報 14回生の小谷昌子姉, 8回生平井道子姉が御逝去なさいました。謹しんでお悔やみ申し上げます。